

# 震災とアスベスト

—1.17から3.11へ

2元中継シンポジウム

2013年1月12日[土]

13時~16時

神戸会場：神戸市勤労会館 大ホール  
石巻会場：石巻市労働会館

●ロビーにてマンガ『石の綿』の原画を展示しています(神戸会場のみ展示)

## 阪神淡路大震災におけるアスベスト飛散実態の検証

基調報告 南 慎二郎(立命館大学)「阪神・淡路大震災の復旧作業における労働実態」  
労働実態に迫る(パネルディスカッション)

基調講演 寺園 淳(国立環境研究所)「相次ぐ中皮腫発症を受けて 被災地の石綿禍を考える」

## 1.17の教訓から3.11被災地へ

阪神淡路の教訓から東日本大震災の課題

パネルディスカッション 神戸と石巻の2元中継

神戸：石原一彦(立命館大学) 寺園 淳(国立環境研究所)

石巻：河北新報記者 外山尚紀(東京労働安全衛生センター) 矢内 勝(石巻赤十字病院) 他  
コーディネーター 伊藤明子(弁護士)

## マスクプロジェクトからの提案

正しい防じんマスクの装着方法

主催 NPOひょうご労働安全衛生センター 立命館アスベスト研究プロジェクト  
共催 NPO東京労働安全衛生センター 中皮腫・じん肺・アスベストセンター  
協賛 中皮腫・アスベスト疾患・患者と家族の会 石綿対策全国連絡会議  
神戸大学人文学研究科 倫理創成プロジェクト 京都精華大学マンガ研究科  
自治労兵庫県本部 大阪アスベスト弁護団 アスベスト訴訟関西弁護団  
興研(株) (株)重松製作所 スリーエムヘルスケア(株)  
後援 兵庫県 神戸市



マスクプロジェクト  
マスクキャラクター  
プロジェクト

# 震災とアスベスト

— 1.17から3.11へ

阪神・淡路大震災の発生からまもなく18年を迎えます。数多くの困難を乗り越え、「復興」したかのように見えるこの街で、肺の奥に突き刺さったアスベスト(石綿)が牙をむき始めています。

吸引後、10数年から40年たって発症するのが石綿のリスクです。ここへきて、当時、復旧作業に携わった人が相次いで石綿に起因するがん、中皮腫(ちゅうひしゅ)を発症しているのです。

膨大な建物の倒壊、取り壊し、撤去、運搬といった作業で膨大な粉じんが飛散しました。当時、全国から駆けつけた労働者たちは、復旧・復興のためにひたすら解体作業に打ち込み、すぐそばではごく当たり前の日常生活が営まれていました。

この様子は、東日本大震災の被災地の姿と重なります。瓦礫の積みあがった被災地で対策がきちんと取られているのでしょうか。阪神・淡路の教訓は生かされているのでしょうか。

原発事故に伴う放射能汚染に目を奪われるあまり、がれきに含まれる粉じんに、命を脅かす石綿が潜んでいることを忘れてはならないのです。

津波、原発、そして今、恐るべき石綿禍が身近にある。「復興災害」ともいえる神戸の現実を、将来の東北で起きる予言にしてはなりません。

そんな願いを込めて、2つの被災地をつなぐシンポジウムを企画しました。

神戸と宮城県石巻市の2会場で同時刻に開催し、インターネット中継し、震災石綿禍の課題を話し合います。



この事業は、「公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構」と「ひょうご安全の日推進県民会議」の助成を受けて実施しています。